2026_0624「湘南港灯台」日々の理科 4336 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

江の島の東側にある湘南港灯台です。片瀬東浜から望むと、相模湾の青い海を背景に白い塔がすっきりと浮かび上がり、江の島を象徴する風景のひとつとなっています。この灯台は、1964 年の東京オリンピックでヨット競技会場となった湘南港の整備に合わせて設置されたもので、現在も港へ出入りするヨットやプレジャーボートの安全を支える現役の航路標識です。白く塗られた円筒形の塔は遠くからでもよく目立ち、海上交通の目印として重要な役割を果たしています。

灯台の灯質（光り方）は「等明暗緑光」で、二秒ごとに明暗を繰り返す緑色の光を放っています。夜になると、その規則正しい点滅によって船舶は自船の位置を確認し、湘南港の入口を見分けることができます。写真では昼間のため灯火は見えませんが、白い塔の上部にある灯室や展望部の構造から、航路標識としての機能をうかがうことができます。防波堤上には釣り人や散策を楽しむ人の姿も見え、湘南港が市民や観光客に親しまれている場所であることを感じさせます。

片瀬東浜から眺める湘南港灯台は、観光名所として知られる江の島シーキャンドルとは異なる、実用のための灯台です。しかしその端正な姿は景観上の魅力も高く、晴れた日には青い海と空に映える美しい被写体となります。ヨットのマストが林立する湘南港の風景とともに、半世紀以上にわたり湘南の海を見守り続けてきたこの灯台は、海洋レジャーの拠点である江の島の歴史を静かに物語る存在でもあります。片瀬東浜からの眺めは、そんな灯台の役割と風格を改めて感じさせてくれる一枚です。